



平成30年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年4月25日

上場会社名 株式会社デファクトスタンダード 上場取引所 東
 コード番号 3545 URL <http://www.defactostandard.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾嶋 崇遠
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 丸尾 隆 TEL 03 (4405) 8177
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第2四半期の業績 (平成29年10月1日～平成30年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	5,746	6.3	286	△4.8	286	△5.3	196	△5.5
29年9月期第2四半期	5,407	—	301	—	302	—	207	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	21.79	21.40
29年9月期第2四半期	22.88	22.25

(注) 1. 平成28年9月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、29年9月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 当社は平成30年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年9月期第2四半期	4,304	3,514	81.6	389.31
29年9月期	4,058	3,314	81.6	368.99

(参考) 自己資本 30年9月期第2四半期 3,513百万円 29年9月期 3,313百万円

(注) 当社は平成30年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、1株当たり純資産は、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	—	—	0.00	0.00
30年9月期	—	—	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の業績予想（平成29年10月1日～平成30年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,091	15.0	480	9.5	480	8.8	332	9.2	36.83

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当第2四半期累計期間における新株予約権の行使による発行済株式数の増加等を加味して算定しております。また、当社は平成30年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該株式分割が当事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年9月期2Q	9,140,000株	29年9月期	9,140,000株
② 期末自己株式数	30年9月期2Q	115,076株	29年9月期	160,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年9月期2Q	9,021,244株	29年9月期2Q	9,089,450株

（注）当社は平成30年3月16日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、発行済株式数（普通株式）は、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の経営成績

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな回復基調が続いております。

当社が属するリユース業界では、引き続きスマートフォンを利用して個人間でリユース品を売買する“フリマアプリ”等の浸透により、市場が拡大傾向にあります。このような環境の下、当社はリユース・ブランド及びファッション商品等(バッグ、洋服、時計、アクセサリ、財布、その他)に特化した買取・販売を、「ネット専業リユース事業」及び「その他事業」として展開してまいりました。

買取面では、オンライン寄付プラットフォームと連携し、平成30年3月より、買取金額の一部をお客様のご希望に応じて支援したい団体に寄付することができるようにいたしました。また同月に、買取申し込みを頂いた方に先着で人気アニメ「ぼのぼの」のグッズをプレゼントするキャンペーン等を開始いたしました。

従来、第2四半期会計期間は当社における収益獲得時期の位置付けでありましたが、当期は積極的に広告宣伝費を投下したことにより、買取金額は大きく伸長することとなりました。特に、比較的高単価の商品の買い取り強化をプロモーションした結果、買取単価が上昇いたしました。結果、当第2四半期累計期間における買取申し込み件数は230,705件(前年同期比2.4%減)、買取金額は3,071,614千円(同19.1%増)となりました。

販売面では、効率的な販売のため、引き続き販路のマルチチャネル化を推進し、「ヤフオク!」「Yahoo!ショッピング」「Wowma!」の各販路において、「総合賞」「中古アイテム賞」「新人賞」をそれぞれ受賞いたしました。一方、今期より自社販路である「ブランディアオークション」の売上構成比の引き上げを戦略的テーマと掲げており、当第2四半期累計期間における売上構成比率は28.3%(前年同期比9.0ポイント増)へ向上し、当第2四半期累計期間における全社の売上総利益率は51.4%(同0.3ポイント増)へ向上いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高は5,746,394千円(前年同期比6.3%増)、営業利益は286,683千円(同4.8%減)、経常利益は286,360千円(同5.3%減)、四半期純利益は196,580千円(同5.5%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① ネット専業リユース事業

ネット専業リユース事業については、広告宣伝の増加に基づき買取商品が増加した結果、販売が増加し、外部顧客に対する当第2四半期累計期間の売上高は5,427,466千円(前年同期比10.1%増)、セグメント利益(売上総利益)は2,894,724千円(同9.4%増)となりました。

② その他事業

一方、その他事業については、法人向けの卸販売よりも個人向けのインターネット販売(ネット専業リユース事業での販売)を優先したこと等により減少し、当第2四半期累計期間の外部顧客に対する売上高は318,927千円(同33.1%減)、セグメント利益(売上総利益)は61,613千円(同48.2%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて150,858千円増加し、3,931,017千円(前事業年度末比4.0%増)となりました。これは主に、現金及び預金が187,776千円減少したものの、商品が281,558千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて95,151千円増加し、373,970千円(同34.1%増)となりました。これは主に、在庫棚等の有形固定資産が91,275千円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて32,066千円増加し、680,404千円(同4.9%増)となりました。これは主に、その他流動負債が52,717千円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて14,005千円増加し、110,391千円(同14.5%増)となりました。これは有形固定資産の取得に伴い、資産除去債務が14,005千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて199,938千円増加し、3,514,192千円(同6.0%増)となりました。これは主に、利益剰余金が173,107千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べて173,076千円減少し、2,292,195千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動により使用した資金は92,613千円(前年同期は294,634千円の獲得)となりました。これは主に、たな卸資産の増加282,652千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の投資活動により使用した資金は80,176千円(前年同期は47,144千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出75,592千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間の財務活動により獲得した資金は3,356千円(前年同期は8,740千円の獲得)となりました。これは主に、自己株式の処分による収入3,420千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間の業績は、概ね当社の予想範囲内にて推移しており、平成30年9月期通期業績予想につきまして、変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,445,470	2,257,693
売掛金	238,662	278,995
商品	1,009,254	1,290,812
貯蔵品	1,657	2,751
その他	85,115	100,763
流動資産合計	3,780,159	3,931,017
固定資産		
有形固定資産	189,779	281,055
無形固定資産	19,938	17,927
投資その他の資産	69,101	74,988
固定資産合計	278,819	373,970
資産合計	4,058,978	4,304,988
負債の部		
流動負債		
買掛金	58,904	56,209
未払法人税等	116,832	98,875
その他	472,601	525,319
流動負債合計	648,337	680,404
固定負債		
資産除去債務	96,386	110,391
固定負債合計	96,386	110,391
負債合計	744,723	790,795
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,209,422	1,209,422
資本剰余金	1,125,449	1,119,672
利益剰余金	1,094,730	1,267,837
自己株式	△116,088	△83,481
株主資本合計	3,313,513	3,513,451
新株予約権	741	741
純資産合計	3,314,254	3,514,192
負債純資産合計	4,058,978	4,304,988

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
売上高	5,407,850	5,746,394
売上原価	2,643,916	2,790,056
売上総利益	2,763,934	2,956,337
販売費及び一般管理費		
雑給	496,937	461,256
広告宣伝費	689,487	855,466
その他	1,276,486	1,352,931
販売費及び一般管理費合計	2,462,911	2,669,654
営業利益	301,022	286,683
営業外収益		
受取利息	11	11
為替差益	330	—
助成金収入	1,130	340
その他	1	2,968
営業外収益合計	1,472	3,320
営業外費用		
為替差損	—	3,643
その他	—	0
営業外費用合計	—	3,644
経常利益	302,495	286,360
税引前四半期純利益	302,495	286,360
法人税、住民税及び事業税	100,361	81,368
法人税等調整額	△5,793	8,410
法人税等合計	94,567	89,779
四半期純利益	207,927	196,580

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	302,495	286,360
減価償却費	12,500	17,278
受取利息	△11	△11
為替差損益(△は益)	△330	3,643
支払手数料	—	0
助成金収入	△1,130	△340
売掛金の増減額(△は増加)	△45,265	△40,333
たな卸資産の増減額(△は増加)	65,932	△282,652
買掛金の増減額(△は減少)	△735	△2,694
未払金の増減額(△は減少)	48,285	55,698
その他の資産の増減額(△は増加)	4,067	△10,151
その他の負債の増減額(△は減少)	△9,722	△36,944
小計	376,085	△10,147
利息の受取額	11	11
法人税等の支払額	△82,592	△82,817
助成金の受取額	1,130	340
営業活動によるキャッシュ・フロー	294,634	△92,613
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△46,224	△75,592
無形固定資産の取得による支出	△919	△150
敷金の差入による支出	—	△4,433
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47,144	△80,176
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	8,740	—
自己株式の取得による支出	—	△63
自己株式の処分による収入	—	3,420
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,740	3,356
現金及び現金同等物に係る換算差額	330	△3,643
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	256,560	△173,076
現金及び現金同等物の期首残高	2,327,288	2,465,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,583,848	2,292,195

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期累計期間(自平成28年10月1日 至 平成29年3月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書 計上額 (注)2
	ネット専業 リユース事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,930,935	476,914	5,407,850	—	5,407,850
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,930,935	476,914	5,407,850	—	5,407,850
セグメント利益	2,644,879	119,055	2,763,934	△2,462,911	301,022

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整しております。

- II 当第2四半期累計期間(自平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益 計算書 計上額 (注)2
	ネット専業 リユース事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,427,466	318,927	5,746,394	—	5,746,394
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,427,466	318,927	5,746,394	—	5,746,394
セグメント利益	2,894,724	61,613	2,956,337	△2,669,654	286,683

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整しております。